

北方山草会の歩み

北方山草会編集部

北方山草会の歩みも創立以来6年を経過しました。そこで、会の歩みを曲がりなりにでも記録しておくことが今後の会の発展に必要なと考えられます。そのために年次を追いつながら会の歩みを忠実に綴っておくことにしました。また、それに加えて、これまでに発表された目次もまとめて収録することにしました。今までに刊行された会誌を効果的に活用するための総目次としての役割を果たすことができれば幸いです。

昭和55年度

「北方山草会」は昭和55年、かつての小樽山草会」の会長であられた阿保精一氏を中心として、親しかった山草仲間が相寄り会い創設された会であります。

その創設の趣旨は次の3点に要約されます。

- ①山草の培養、繁殖の研修普及は明るく自由な立場と純粋な愛情で行われなければならないこと。(理念)
- ②明朗で進歩的な会をめざし、堅実な会を築き上げていくこと。
- ③これからの山野草愛好者のあり方は一にも二にも繁殖によるものでなければならぬし、稀品の山草を自慢したり、ひそかに楽しむものでもないこと。そして、知識も技術も山草もお互いに足らぬものを補い合い、これからの山野草培養を一層楽しいものにしていくこ

と。

以上の3点を目指して創設されたのが北方山草会でありました。

当時の顧問の先生、創立委員は次のようでありました。

顧問 (五十音)

坂本直行先生

豊国秀夫先生

野坂志朗先生

創立委員 (五十音)

阿保精一

志賀史郎

菅原勝雄

高野英二

高橋喜一郎

土屋久雄

坪田尚雄

中川秀雄

新岡武彦

当時の事務局は小樽市富岡1～9～23、阿保精一氏方に置かれました。そして、上記の方々が最も困難な会の創設に大いに努力されました。

本会の会誌につきましては、創立当時よりきめこまかい手作りの味を出したいという願いがこめられておりました。

今は、まぼろしの書物、船崎光治郎著の「図説樺太の高山植物」(樺太庁、昭和16年刊)の原色手がき図版をカラー写真にしたもの8葉が収録され、坂本直行画伯の題字

とすばらしいキバナシャクナゲの表紙絵を付けて創刊号が発行された。今の時代には珍らしい手造りの会誌でありました。

昭和56年度

この年、原秀雄先生に顧問就任をお願いし、快く承諾をいただくことができました。原先生には会誌第2号からカラー写真についての解説を専門的な立場から執筆していただくことになり一層内容の充実した会誌を刊行することができるようになりました。

会誌第2号は坂本画伯のカムイコザクラでかざることができました。なお、本号から創刊号にはなかった会員名簿が加えられました。会員数は37名(昭和56年3月1日現在)、顧問は原先生を加え4名。

編集委員

阿保精一	大宮不二雄
志賀史郎	菅原勝雄
高野英二	高橋喜一郎
土屋久雄	坪田尚敏
中川秀雄	新岡武彦

昭和57年度

昭和57年2月2日、会長阿保精一氏がご逝去され、さらに同年5月4日、美しい絵で会誌をかざっていただいた顧問の坂本直行先生も御他界されました。北方山草会の2名の重鎮を失ったことは、内外ともに大きな損失でありました。そればかりではなく、本会の会誌の発行も断念しなければならぬのではと危惧されたのでありました。しかし、幸いにも御遺族の方々からの多大なる御支援により、57年11月に会誌発行の

運びとなりました。

会長阿保精一氏の御他界にともない、事務局は小樽市より札幌市西区西野11条9丁目5の10、高野英二氏方に移されました。

会誌3号の表紙絵については坂本画伯御遺族の承諾を得てキバナシャクナゲの絵を再び使用させていただきました。

創設より会の歴史は浅いのですが、当会の会誌は高く評価されるまでに至りました。

なお、この年は会長阿保精一氏の御他界にともなつて会員の大移動が起きました。特に小樽市在住の会員の方々の退会が目立ちます。会との結びつきというよりは、会長故阿保氏個人との結びつきが強かった人々が退会され会員の大移動が起きました。北方山草会の大きなできごとでありましたので忠実に書き留めておくことにしました。

〈昭和57年度会員移動〉

- ・御逝去：会長阿保精一
顧問 坂本直行
- ・新会員：外山雅寛(新篠津村)
北澤 廣(東京都)
- ・退会者：坂垣 孟(小樽市)
土屋久雄(上富良野)
土岐芳明(ニセコ町)
福岡申夫(小樽市)
本間ハナ(小樽市)
松浦武雄(札幌市)
樋口邦俊(上富良野)
鷺津 彰(愛知県)
山本清恵(小樽市)
森 和男(西宮市)
溝江ふで(小樽市)
宮本裕三(小樽市)

宮崎三知蔵（鎌倉市）
田畑 武（上の国村）
館山輝夫（小樽市）
高橋喜一郎（米沢市）
志賀史郎（小樽市）
久保省三（小樽市）
久保武夫（仁木町）
奥山 嵩（小樽市）
安藤留治（美唄市）

昭和58年度

この年、故阿保氏なき後、委員が集まって今後の会誌の刊行をどうするかについて検討致しました。その結果会誌の刊行を続行しようということになりました。

これは今まで築いてきた基礎を大切に活動の充実はもとより、会誌の内容もすばらしいものにしていこうという願いからでもありました。

あの美しい表紙絵を描いていただいた坂本先生なき後であったので再びあのような美しい山草誌はできないのではと思われました。ところが、幸いにも高野英二氏が坂本先生が描かれたエゾフウロウの原画を所蔵されておりました。清楚で北方山草にとてもふさわしい原画で、早速それを使用することにしました。

昭和58年12月第4号は以前にも増してすばらしいものとなってできあがってきました。会誌の刊行については長い間高野英二氏が精力的に努力されてきました。

会誌刊行時の会員数は26名となりました。

58年度は前年の会員の大移動に比べて会員も落ち着きを見せ、ほんとうに植物の好

きな方々の増加を見ました。

・新会員：荒川盛興（伊達市）
木俣正和（岐阜県）
高野秀樹（広島町）
俵 昌芳（横浜市）
林伸次郎（福島県）

。退会者：1名もありません。

昭和59年度

今までの活動にさらに充実した会にするために、委員の大宮不二雄氏の発案により山野草の種子を無償配布することを本会の事業に加えることになりました。

この事業については特に紋別郡遠軽町の吉本明氏より絶大なる御支援をいただき、また精細な種子目録を送っていただきました。数名の方々から種子等の御寄贈をいただき、種子銀行の役割は委員の大宮さんが担当してくれました。このことにより、創設当時の会の趣旨が大いに生かされ、会員の方々も熱心に培養されました。

会員の方々は全国に散らばっておりますが、足もとの北海道を見た場合東部方面の会員としては吉本明氏1名しか見当りません。純粋な心から北海道内の植物をよく知るためにも、道東部方面の会員増（植物を真に愛するの方々）の必要が痛感されます。

本年度会に入られた方々は自然を愛する方々、植物を専門的に研究される方、培養を専門になさっている方、美を追求される方々など多彩なメンバーが加わり会の一層の発展が期待されるようになりました。

・新会員：小宮定志（東京都）
大井延人（ニセコ町）

大塚正夫（札幌市）

小野爾良（白老町）

沢田慶子（札幌市）

山谷吉蔵（札幌市）

清水藤子（当別町）

・退会者：1名もありません。

・御逝去：竹田ナミ

昭和60年度

昨年度より本会会員になられた小宮定志先生（食虫植物分類学者）が本年6月8日～9日両日にわたって新篠津湿原、北村、美唄市、江別市のタヌキモ科植物を調査されました。8月には再び来道され、11日正午より静狩湿原にて大井、清水、外山の会員諸氏と合流湿原を踏査されました。同日さらに白老町ヨコスト湿原、13日には釧路湿原、14日には月形町月ヶ湖湿原、新篠津湿原を踏査され、道内のタヌキモ科植物、特にミミカキグサ類の道内分布の状況を観察されました。

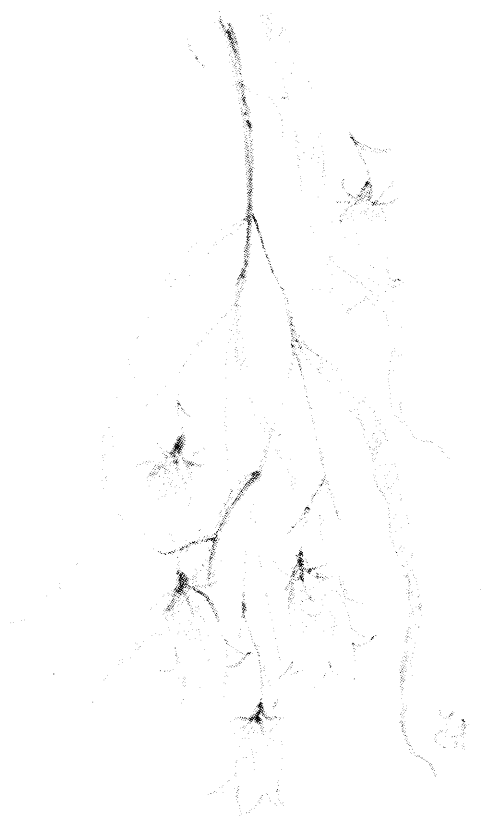
釧路湿原でのムラサキミミカキグサの正式な確認は戦前戦後を通じて最初のできごとでありました。

〈北方山草会の歩みをまとめて〉

本会の歩みをまとめながら、やはり最低でも5年に1度はその歩みをまとめておくことが一層必要な気がしました。

新会員の方々にも会の動向を理解していただくこともできるのではと思われました。

（文責 外山雅寛）



イワシヤジン